

1 A Y A世代の健康づくりについて

A Y A世代（思春期・若年成人期）は、学校健診の終了後から特定健診の対象となるまでの間、健康状態を定期的に確認する制度的な機会が少なくなる世代です。

一方で、生活習慣や健康意識が、その後の人生における健康状態に大きな影響を及ぼす重要な時期でもあり、若年期から健康と向き合う支援の在り方が、今あらためて問われていると考えます。

市ではプレコンセプションケア（妊娠前のケア）に取り組まれています。が、妊娠・出産に限らず、若い世代の男女が将来を見据えて自らの健康を考える取組として、どのように位置づけ、発展させていくのか、以下伺います。

(1) A Y A世代における健康管理の課題認識について

A Y A世代が、学校健診や特定健診の対象ではないことで、健康状態を確認する機会が少なくなっている現状について、市はどのような課題認識を持っているのか伺います。

(2) 将来を見据えて健康と向き合うことの重要性について

将来の疾病予防や生涯にわたる健康維持の観点から、A Y A世代から健康意識を育むことの重要性について、市はどのように認識しているのか伺います。

(3) プレコンセプションケアの今後の考え方について

A Y A世代の男女が健康であることは、本人の将来の健康のみならず、次世代の健康にもつながるものと考えます。市におけるプレコンセプションケアについて、妊娠・出産に備える支援に限定するのではなく、若年期から将来を見据えて健康と向き合うための取組として、より広い視点で位置づけていく考えはあるのか、今後どのような方向性で展開していくのか伺います。

2 ゼロカーボンシティ実現への取組について

市では、ゼロカーボンシティの実現に向けて、これまで事業者を対象とした脱炭素投資支援や、CO₂排出量の算定、削減計画の策定、Jクレジット制度の活用など、着実な取組が進められてきました。

一方で、市民一人ひとりや各家庭に目を向けると、太陽光発電設備の導入支援は限定的であり、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組が、自ら関わり行動につなげていくものとして、実感しにくい状況にあるのではないかと感じています。

ゼロカーボンシティの実現は、行政や一部の事業者だけが進めるものではなく、市民一人ひとりの行動の積み重ねによって実現していく取組であると考えます。

あわせて、市内で排出されるCO₂を可能な限り市内で削減していくという視点は、地域資源を生かした持続可能なまちづくりとして重要であり、市民が主体的に関わる意義をより明確にするものだと考えます。以上を踏まえ、以下伺います。

(1) 各家庭及び市民一人ひとりの位置づけについて

本市のゼロカーボンシティ施策において、各家庭や市民一人ひとりをどのような担い手として位置づけているのか伺います。

(2) 再生可能エネルギー導入支援の課題認識について

住宅用太陽光発電設備等の導入支援策の現状と市民の活用状況を踏まえ、設置に関する課題や支援のあり方について、どのような認識を持っているのか伺います。

(3) 市民の前向きな意欲を施策に生かす視点について

脱炭素に関心を持ち、自ら行動したいと考える市民の思いを、市としてどのように受け止め、今後の施策に生かしていく考えか伺います。

(4) 市民とともに進める取組の今後の方向性について

企業への支援に加え、各家庭や市民一人ひとりが参加しやすく、前向きに関われる環境づくりが重要と考えます。

今後、ゼロカーボンシティの実現に向け、市民とともに進めるエネルギー施策を、どのような方向性で展開していく考えか伺います。

3 高齢者の生きがいくくりと磐田市歌の活用について

現在、磐田市歌は、正午に流れるBGMとして市民に親しまれているほか、市が主催する式典や小中学校の行事などでは、皆で歌う機会も多く、歌える人が増えてきています。

一方で、高齢者からは、「磐田市歌を知らない」「できれば歌ってみたい」「習う機会やきっかけがない」といった声が聞かれ、歌いたい気持ちはあっても、実際に歌う機会に恵まれていない現状があります。

歌うことは、口腔機能の維持や認知症予防、気分の向上、仲間との一体感の醸成など、心身の健康の両面に良い効果があるとされています。

美しい歌詞とメロディをもつ磐田市歌を、より多くの市民が親しめるものとするため、以下伺います。

(1) 高齢者の健康づくり・生きがいくくりの視点から

- ① 高齢者の健康づくりや生きがいくくりの観点から、磐田市歌をより身近で参加しやすい形で活用していく考えについて伺います。
- ② 高齢者が参加する「いきいき百歳体操」などの既存事業の中で、歌う要素を取り入れる考えについて伺います。

(2) 世代を超えた市歌の共有について

磐田市歌を、高齢者を中心とした場で親しむ機会を広げていくことは、地域の中で歌い継がれるものとして、若い世代へと受け継がれていく契機にもなると考えます。

こうした取組を通じて、世代を超えた市歌の共有を図っていくことについて、市としての見解を伺います。